

令和 2 年 9 月 16 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H05153

研究課題名(和文) アルタイ諸言語の語彙の総合的集成

研究課題名(英文) Comprehensive study for the lexicon of Altaic languages

研究代表者

風間 伸次郎 (KAZAMA, Shinjiro)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：50243374

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：ツングース諸語のうちの8言語の辞書データベースを作成した。これは現在公開準備中である。モンゴル諸語とチュルク諸語の音声付き比較基礎語彙データベースを作成した。これはHPですでに公開している。現地調査により、音声付きテキストを多く収集し、これは報告書の形で刊行している。語彙とその比較に関する論文を多く執筆した。これは学術的紀要等に掲載されている。聞き出しによって文法的問題に関する例文データを多く収集し、これは論文や研究資料として発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ツングース諸語の辞書は圧倒的に不足しているため、日本語との類型的類似や系統関係の蓋然性も指摘されるアルタイ諸言語に関して、今回作成した語彙データベースの学術的意義はきわめて高く、今後のデータの拡充が難しい現在では永世にわたり恒久的に参照され続ける典拠となるだろう。本語彙データベースは派生接辞をはじめとする文法の解明にも決定的な重要性を持つ。アルタイ諸言語における語彙と文法の境界領域の研究の進展は、日本語を含むいわゆる「アルタイ型の言語」を世界言語の諸類型の中に位置づけることにつながる。比較語彙のデータベースは通時的研究においてきわめて重要であり、発表が久しく望まれていたものである。

研究成果の概要(英文)：We have established the database on the lexicon of 8 Tungusic languages. We are preparing for publishing this data.

We have established the database on the lexicon of Mongolic and Turkish languages. We have already published this data on our Website. We published some papers on the lexicon and the comparative problems of the Altaic languages. These works are published as the articles on some scientific journals. We have collected many data of sentences for analysing the grammatical problems of the Altaic languages by elicitation on the fieldworks. These data are published as the materials, and some papers are written according to these data.

研究分野：記述言語学

キーワード：アルタイ諸言語 比較言語学 基礎語彙 辞書 言語類型論 フィールドワーク 音声資料 テキスト

## 1. 研究開始当初の背景

## 1. アルタイ諸言語研究の重要性

アルタイ諸言語は、ツングース諸語、モンゴル諸語、チュルク諸語の3つのグループよりなるが、3つのグループ間の系統関係の有無もお問題視されている。朝鮮語や日本語の起源との関連で最も重要視されてきたものの、その関係もお不明である。地理的に最も日本の近くに位置する言語群であり、類型的にみても日本語と文法構造が最もよく類似したタイプの言語群である。ツングース諸語は10ほどの言語からなり、満洲語を除き文字による記録をほとんど持たない。そのほとんどは話し手があとわずかしかなかった**危機言語**である。モンゴル諸語はやはり10ほど、チュルク諸語は26ほどの言語よりなる。モンゴル国の国語であるハルハ・モンゴル語やトルコ語、ウズベク語など、公用語として大きな話者人口をもつ言語もあるが、ダグール語、ハカス語など、日本をはじめ海外には音声データをはじめとする**記録資料がきわめて少ない言語も多く存在する。**

## 2. 先行研究の到達状況

ツングース諸語の辞書は圧倒的に不足しており、日本語はもちろん、英語による研究も不可能な状況にある。ナーナイ語-ロシア語辞典には Onenko (1980, 総552p., 12,800語) があるものの、ロシア語からの借用語も多い。例文がある点は貴重である。ウデヘ語-ロシア語辞典の Girfanova (2001) はいくつかの語彙集を総合し、語源についての考察も含むが、例文は皆無である。ウルチャ語、オロチ語、ネギダル語に関しては、辞書と呼べるものが未だに存在しない。ウルチャ語では、そもそも Sunik (1985) 以外に先行研究がなく、その巻末に100p.の語彙集があるのみである。例文も皆無である。オロチ語、ネギダル語の状況も同様である。ツングース諸語全般に関しては、Cincius (1975, 1977) 『ツングース諸語比較辞典』がある。これには各ツングース諸語からの索引があるが、エウエンキー語が見出しであるなど問題点も多く、例文もない。

モンゴル諸語とチュルク諸語では、すでに大部の辞書が各言語について刊行されている。しかし音声データを備えた比較語彙集は未だに存在しない。たしかに話者は多数存在するが、グローバル化に伴い、伝統的な文化とそれを表現する豊かな語彙は現在急速に失われつつある。

## 【参考文献】

Cincius V. I. i dr. (1975, 1977) *Sravnitel'nyj slovar' tunguso-man'chzhurskikh jazykov, Materialy k etimologičeskomu slovarju, t. I, II.* Nauka. Leningrad. / Girfanova, A. Kh. (2001) *Slovar' udegejsokogo jazyka.* Nauka. Sankt-Peterburg. / 大江孝男 (1988) 「アルタイ諸言語」亀井孝・河野六郎・千野栄一(編)『言語学大辞典 第1巻』:528-545.三省堂 / Onenko (1980) *Nanajsko-Russkij slovar'.* Russkij jazyk. Moskva. / Sunik, O. P. (1985) *Ul'chskij jazyk.* AN SSSR. Leningrad.

## 2. 研究の目的

本研究の主要な目的は、アルタイ諸言語に含まれる各言語の語彙に関するこれまでの記述的研究の成果を体系化し、さらに拡充していくことにある。具体的には次の3点を目的とする。

ツングース諸語に関しては、蓄積してきた一次資料に基づき、各言語の例文付き辞書を作成する。

モンゴル諸語、チュルク諸語に関しては、音声付きの比較基礎語彙データベースを作成する。

上記成果のさらなる拡充のため、現地調査による語彙やテキストの収集をさらに継続していく。

## 3. 研究の方法

## 1. データの整理

1(a) ツングース班：テキストデータからの例文つき個別言語辞書ならびに比較辞典を作成する。

1(b) モンゴル班：音声データと文献からの情報から、音声付比較基礎語彙データベースを作成する。

1(c) チュルク班：音声データと文献からの情報から、音声付比較基礎語彙データベースを作成する。

## 2. 現地調査

2(a) ツングース班：現地調査と招聘によりナーナイ語、エウエン語、ウルチャ語、ソロン語の調査を行う。

2(b) モンゴル班：国内外においてブリヤート語、ダグール語、内モンゴルのモンゴル諸語の調査を行う。

2(c) チュルク班：新たにチュヴァシ語、タタール語を現地調査、国内でも可能な諸言語の調査を行う。

## 4. 研究成果

夏休み及び春休みに、ナーナイ語、エウエン語カムチャツカ方言、エウエン語オホーツク方言、ソロン語、チュヴァシ語、保安語、東郷語、土族語、東部裕固語、ダグール語、などの言語の現地調査を行うとともに、学園祭期間中、春休みに上記の言語の話者を招へいし、また得られた資料を学部生及び院生と共に謝金を支払って分析を進め、下記のような一連の研究成果を上げた。

### (1) モンゴル諸語対象基本語彙データベース

(<https://mongolicbv.aa-ken.jp/bv/index.html?menu=0>)

### (2) チュルク諸語対照基礎語彙 (<https://turkbv.aa-ken.jp/turkbv2017/>)

(3) 風間伸次郎 (2016) 「地域的・類型論的観点からみた無生物主語について」北海道大学大学院文学研究科 北方言語ネットワーク (編) 『北方言語研究』 6: 81-110.  
<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/60796/1/06kazama.pdf>

(4) 風間伸次郎 (2016) 「モンゴル語、ツングース諸語、エスキモー語の3者における類似点と相違点について」北方研究教育センター(編) 『北方人文研究』 9: 1-16.

(5) KAZAMA, Shinjiro (2016) Tuvan texts. *Journal of the Center for Northern Humanities*. No. 8: 111-136. Center for Northern Humanities Graduate School of Letters, Hokkaido University.

(6) 風間伸次郎 (2016) 「(第1部 魚) 第5章 魚の王国アムール河(ナーナイ、ウルチャ)」永山ゆかり・長崎郁(編) 『シベリア先住民の食卓 食べ物から見たシベリア先住民の暮らし』 91-107. 神奈川県平塚：東海大学出版部

(7) 風間伸次郎 (2016) 「(第3部 植物) 第27章 アムール流域の食用植物—万能調味料塩漬けラムソン(ナーナイ、ウデヘ)」永山ゆかり・長崎郁(編) 『シベリア先住民の食卓 食べ物から見たシベリア先住民の暮らし』 91-107. 神奈川県平塚：東海大学出版部

(8) 風間伸次郎 (2016) 『エウエン語ピストラヤ方言テキスト1』ツングース言語文化論集 62. 府中：東京外国語大学.

(9) 風間伸次郎 (2016) 「III部 第3章 7000もの言語！ そんなのありか!? —そう、何でもあります！」中島平三(編) 『ことばのおもしろ事典』 東京：朝倉書店. 211-229.

(10) 風間伸次郎 (2016) 「III部 第8章 “文字通り”の豪華絢爛」中島平三(編) 『ことばのおもしろ事典』 東京：朝倉書店. 273-284.

(11) 風間伸次郎 (2016) 「ツングース諸語において祖形\*-ks-が仮定される音対応について」『語学研究所論集』 21 東京外国語大学語学研究所 1-15.

(12) 風間伸次郎 (2016) 「(特集「情報構造と名詞述語文」) まえがき」『語学研究所論集』 21 東京外国語大学語学研究所 17-44.

(13) 風間伸次郎 (2016) 「《データ：「情報構造と名詞述語文」》ソロン語」『語学研究所論集』 21. 東京外国語大学語学研究所 249-257.

- (14) 風間伸次郎 (2016) 「《データ：「情報構造と名詞述語文」》ナーナイ語」『語学研究所論集』21. 東京外国語大学語学研究所 259-268.
- (15) On the similarities and differences between the Mongolic, Tungusic, and Eskimo-Aleut languages. *Studia Orientalia* 117, 65-80.
- (16) 風間伸次郎 (2017) 「条件と継起の連続性について —疑似条件形式を中心として—」北海道大学大学院文学研究科 北方言語ネットワーク(編) 『北方言語研究』7: 35-68.
- (17) 風間伸次郎 (2017) 「アルタイ型言語における主要部内型関係節について」北方研究教育センター(編) 『北方人文研究』10: 3-33.
- (18) KAZAMA, Shinjiro (2017) Emotional predicates in “Altaic-type” languages. *Linguistic Typology of the North*. 4: 131-153.
- (19) KAZAMA, Shinjiro (2017) On the linguistic type of Japanese: Toward an understanding of “Altaic-type” languages. *Linguistic Typology of the North*. 4: 155-172.
- (20) KAZAMA, Shinjiro (2017) The inanimate subject from the perspective of linguistic area and linguistic typology. *Linguistic Typology of the North*. 4: 173-202.
- (21) 風間伸次郎 (2018) 「ことばの癖いろいろ —日本語みたいな言語の癖—」『日本語学』37-1. 4-13. 明治書院
- (22) 風間伸次郎 (2018) 「アルタイ諸言語と朝鮮語、日本語におけるいわゆる「再帰代名詞」の対照研究」『北方言語研究』8. 1-36.
- (23) 風間伸次郎 (2018) 「トルコ語の -ki(n) とモンゴル語の -x との比較・対照 —共時的・通時的両面からの検討—」『ユーラシア諸言語の多様性と動態 —20号記念号—』CSEL series 20. 191-225.
- (24) 風間伸次郎 (2018) 「アルタイ諸言語」李林静・山越康裕・児倉徳和(編著)『中国北方危機言語のドキュメンテーション』3-6. 東京：三元社
- (25) 風間伸次郎 (2018) 「ソロン語」李林静・山越康裕・児倉徳和(編著)『中国北方危機言語のドキュメンテーション』101-159. 東京：三元社
- (26) 風間伸次郎 (2018) 『ソロンの文化と生活 1』ツングース言語文化論集 64. 府中：東京外国語大学
- (27) 風間伸次郎 (2018) 『エウエン語ピストラヤ方言テキスト 2』ツングース言語文化論集 65. 府中：東京外国語大学
- (28) 風間伸次郎 (2018) 「アルタイ型言語における命令形の反語用法・条件用法について」寺村正男(編)『言語の研究』水門の会特刊叢書 1-19.
- (29) 風間伸次郎 (2019) 「(特集「情報表示の諸要素」)まえがき」『語学研究所論集』22 東京外国語大学語学研究所 177-182.
- (30) 風間伸次郎 (2019) 「《データ：「情報表示の諸要素」》ナーナイ語」『語学研究所論集』22 東京外国語大学語学研究所 25-45.
- (31) 風間伸次郎 (2019) 「《データ：「情報表示の諸要素」》エウエン語」『語学研究所論集』22 東京外国語大学語学研究所 183-188.
- (32) 風間伸次郎 (2019) 「第6章 語順と情報構造の類型論」竹内史郎・下地理則(編)『日本語の格標示と分裂自動詞性』143-178. 東京：くろしお出版
- (33) 風間伸次郎 (2019) 「ロシアへ中国へ、「アルタイ型」言語の正体を探る」『Field Plus』21: 4.
- (34) 風間伸次郎 (2019) 「アルタイ諸言語の場所表現における名詞的性格について」『北方言語研究』9: 41-65.
- (35) KAZAMA, Shiinjiro (2019) On the internally headed relative clause in Altaic-type languages. *Asian and African linguistics* 13: 1-40.

- (36) 風間伸次郎 (2019) 「(特集「否定、形容詞と連体修飾複文」)まえがき」『語学研究所論集』23 東京外国語大学語学研究所 17-37.
- (37) 風間伸次郎 (2019) 「《データ:「否定、形容詞と連体修飾複文」》ナーナイ語・エウエン語・ソロン語」『語学研究所論集』23. 東京外国語大学語学研究所 249-257.
- (38) 風間伸次郎 (2020) 「アイヌ語はどの言語と似ているか 一対照文法の試み一」『日本語の起源はどのように論じられてきたか - 日本言語学史の光と影』東京:三省堂
- (39) 風間伸次郎 (2020) 「言語類型論から見た日本語の格」木部暢子・竹内史郎・下地理則(編)『日本語の格表現』東京:くろしお出版
- (40) 風間伸次郎 (2020) 「アルタイ型言語の語順特性およびそれと内的関連性を持つ諸特徴について」『北方言語研究』10.
- (41) 風間伸次郎 (2020) 「モンゴル語の再帰人称の機能について」『語学研究所論集』24.
- (42) YAMAKOSHI, Yasuhiro. A Suffix or a Clitic? The Negative Marker "\_gui" in Buryat. Proceedings of the 14th Seoul International Altaistic Conference: Grammars of Altaic Languages. 2019 7. 93-108
- (43) 山越康裕・さねすえ 978-4-86337-319-8. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 白鳥と狩人: ブリヤートの民話. 2020 . 36 ページ 1.DOI
- (44) Kogura, Norikazu. On the bare verbal stem forms in Sibe: Imperative of irrealis? Proceedings of The 14th Seoul International Altaic Conference . 2019 221-234

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 風間伸次郎	4. 巻 9
2. 論文標題 アルタイ諸言語の場所表現における名詞的性格について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 41, 65
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 KAZAMA, Shinjiro	4. 巻 13
2. 論文標題 On the internally headed relative clause in Altaic-type languages.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian and African linguistics	6. 最初と最後の頁 7, 46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/92949	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 風間伸次郎	4. 巻 8
2. 論文標題 アルタイ諸言語と朝鮮語、日本語におけるいわゆる「再帰代名詞」の対照研究	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 1, 36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 風間伸次郎	4. 巻 20
2. 論文標題 トルコ語の -ki(n) とモンゴル語の -x との比較・対照 共時的・通時的両面からの検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 CSEL series ユーラシア諸言語の多様性と動態 20号記念号	6. 最初と最後の頁 191, 225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 風間伸次郎	4. 巻 37-1
2. 論文標題 ことばの癖いろいろ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 4, 13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 風間伸次郎	4. 巻 7
2. 論文標題 条件と継起の連続性について 疑似条件形式を中心として	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 35-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 風間伸次郎	4. 巻 10
2. 論文標題 アルタイ型言語における主要部内在型関係節について	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 北方人文研究	6. 最初と最後の頁 3-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shinjiro, KAZAMA	4. 巻 4
2. 論文標題 Emotional predicates in "Altaic-type" languages	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Linguistic Typology of the North	6. 最初と最後の頁 131-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Shinjiro, KAZAMA	4. 巻 4
2. 論文標題 On the linguistic type of Japanese: Toward an understanding of "Altaic-type" languages	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Linguistic Typology of the North	6. 最初と最後の頁 155-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shinjiro, KAZAMA	4. 巻 4
2. 論文標題 The inanimate subject from the perspective of linguistic area and linguistic typology	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Linguistic Typology of the North	6. 最初と最後の頁 173-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro	4. 巻 26
2. 論文標題 Predicative non-past participles in the Secret History of the Mongols	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Altai Hakpo	6. 最初と最後の頁 85-101
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山越康裕	4. 巻 10
2. 論文標題 シネヘン・プリアート語の2種類の未来表現：分詞の定動詞化に関する3類型	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 北方人文研究	6. 最初と最後の頁 79-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 風間伸次郎	4. 巻 9
2. 論文標題 日本語（話しことば）は従属部標示型の言語なのか？ 映画のシナリオの分析による検証	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 国立国語研究所論集	6. 最初と最後の頁 51-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 風間伸次郎	4. 巻 6
2. 論文標題 地域的・類型論的観点からみた無生物主語について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 北方言語研究	6. 最初と最後の頁 81-110
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 風間伸次郎	4. 巻 34巻11号
2. 論文標題 対照研究で読み解く日本語の世界 ツングース諸語をはじめとするアルタイ諸言語	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 日本語学	6. 最初と最後の頁 58-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 風間伸次郎	4. 巻 9
2. 論文標題 モンゴル語、ツングース諸語、エスキモー語の3者における類似点と相違点について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 北方人文研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 KAZAMA, Shinjiro	4. 巻 9
2. 論文標題 Tuvan texts	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 北方人文研究	6. 最初と最後の頁 111-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro
2. 発表標題 Language documentation of Mongolic languages spoken in the northeast of China: a case of Shinekhen Buryat
3. 学会等名 Documentary Linguistics: Asian Perspectives (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山越康裕
2. 発表標題 ブリヤート語未来分詞の文末用法：分詞の「再名詞化」によるモダリティ表現
3. 学会等名 日本言語学会第152回大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 YAMAKOSHI, Yasuhiro
2. 発表標題 Insubordination in Mongolic languages
3. 学会等名 The 11th International Congress of Mongolists (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 KAZAMA, Shinjiro
2. 発表標題 On the Silverstein's hierarchy from the viewpoint of linguistic area and linguistic typology
3. 学会等名 International Conference: NORTHEAST ASIA AND THE NORTH PACIFIC AS A LINGUISTIC AREA (国際学会)
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 風間伸次郎
2. 発表標題 ツングース諸語において祖形 *ks が仮定される音対応について
3. 学会等名 日本語学会
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 風間伸次郎
2. 発表標題 アルタイ型言語について
3. 学会等名 「アルタイ型」言語に関する類型的研究」第1回研究会
4. 発表年 2015年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 風間伸次郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 35
3. 書名 日本語の格標示と分裂自動詞性	

1. 著者名 李林静、山越康裕、児倉徳和、風間伸次郎、山田洋平	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 256
3. 書名 中国北方危機言語のドキュメンテーション	

1. 著者名 風間伸次郎	4. 発行年 2016年
2. 出版社 東京外国語大学（本科研費による印刷）	5. 総ページ数 188
3. 書名 エウエン語ピストラヤ方言テキスト1	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>北海道大学学術成果コレクション HUSCAP 北方人文研究  <a href="http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/34523">http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/34523</a>          北海道大学学術成果コレクション HUSCAP 北方言語研究7 条件と継起の連続性について  <a href="http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/64508">http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/64508</a>          チュルク諸語対照基礎語彙  <a href="http://turkbv.aa-ken.jp/turkbv2016/">http://turkbv.aa-ken.jp/turkbv2016/</a>          東京外国語大学 語学研究所  <a href="http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/">http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ilr/</a>          北方研究教育センター  <a href="http://cnh.let.hokudai.ac.jp/">http://cnh.let.hokudai.ac.jp/</a>          北海道大学学術成果コレクション  <a href="http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/45217">http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/45217</a></p>
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	山越 康裕  (Yamakoshi Yasuhiro)  (70453248)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授   (12603)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	児倉 徳和  (Kogura Norikazu)  (70597757)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授     (12603)	